

“20 poemas de amor y una canción desesperada”

Pablo Neruda

Me gustas cuando callas porque estás como ausente,
y me oyes desde lejos, y mi voz no te toca.
Parece que los ojos se te hubieran volado
y parece que un beso te cerrara la boca.

Me gustas cuando callas porque estás como ausente.
Distante y dolorosa como si hubieras muerto.
Una palabra entonces, una sonrisa bastan.
Y estoy alegre, alegre de que no sea cierto.

『二十の愛の詩と一つの絶望の歌』

パブロ・ネルーダ

黙っているときのおまえが好きだ うつろな
ようすで
遠くで おれに耳を傾けているのに おれの
声はおまえに届かない
おまえの目はどこかに飛び去ってしまったか
のようだ
一度のくちづけが おまえの口を閉じさせて
しまうかのようだ

黙っているときのおまえが好きだ うつろな
ようすで
息絶えたかのように かなたにいて いたい
たしくて
そんなときは ひとつのことばと微笑みだけ
でいい
すると おれは楽しくなる 楽しくなくても
楽しくなる

【作品の解説】

南米チリの詩人で外交官、政治家でもあった、パブロ・ネルーダ(Pablo Neruda : 1904-1973)の若き日の代表作『二十の愛の詩と一つの絶望の歌』、その中でも、ネルーダ本人に朗読のリクエストが多かった、とされている『愛の詩 15 番』よりテキストを抜粋、今回の課題文といたしました。

※参考文献：『ネルーダ詩集』 ネルーダ・パブロ(著)・田村さと子(訳・編) 思潮社 2004